

<< 前のページへ [ 1 ] [ 2 ] 3 [ 4 ] 次のページへ >>

エンターテインメント分野では、ソニー・エリクソンが昨年発売したウォークマン携帯“W810”や超小型デジカメ“サイバー・ショットDSC-T9”などを次々と紹介した。電子ブック端末“ソニー・リーダー”では、ベストセラー・サスペンス小説として有名な“ダビンチ・コード”の作者、ダン・ブラウン氏が壇上に登場。同氏は、子供達が重い教科書を持ち歩く必要もなく、しかも最新の内容を維持できる例を出して、電子ブックの効用を解説した。現在、ソニー・リーダーで読めるタイトルは100冊前後と少ないが、2006年秋には1000タイトル以上に増えるとしている。

また、ロケーションフリーTVとプレイステーション・ポータブルを組み合わせたデモンストレーションもあった。ロケーション・フリーTVは、無線ネットワークを経由して、家庭内どこでもテレビが鑑賞できる商品だが、最近インターネット経由で出先からパソコンを使って番組を見ることもできる。今回は、パソコンの代わりに、プレイステーション・ポータブルを使ってニューヨークの生番組を受信して見せた。

#### ■ 着実な製品紹介を展開

デジタル・シネマは、ソニーが力を入れてきた分野だ。スターウォーズ・ストーリー3の制作で威力を発揮したほか、“タイタニック”で有名なキャメロン監督が使い始めるなど、ハリウッドでは同社のHDW-F900カメラを使ったフル・デジタル制作が動き出している。今回は一歩進んで、映画館での上映システムとして4KSXRD プロジェクターを紹介し、同社が制作から上映まで映画すべてをデジタル化する姿勢を示した。

一方、ハイディフィニションでは、液晶テレビ分野で市場の3割を押さえトップに立つなど、同社のHDテレビが米国で好調なことを強調した。また、同社が進めるHD録画再生技術、ブルーレイに触れ、パートナーが160社を超えたことや、下位互換性を確保している点などを強調した。ソニーは、5機種のブルーレイ機器を今回発表しているが、それに伴いブルーレイ・フォーマットの映画20作をリリースしている。

プレイステーションの次期製品、プレステ3の紹介では「(同製品が出るまで)新世代ゲームの時代は訪れない」と先に発売したXBox360を意識した発言もあった。

<< 前のページへ [ 1 ] [ 2 ] 3 [ 4 ] 次のページへ >>